

延原武春さんの近況

編集部

相変わらず精力的に演奏活動に励まれ、また時折、一般紙文化欄等に登場されています。その一部をここに紹介させていただきます。活動結果報告書のようになっていました。

II 10年9月16日

ハイドン・交響曲第7番ハ長調「昼」

モーツアルト

ホルン協奏曲第1番ニ長調

ベートーヴェン・交響曲第6番ハ長調「田園」作

品68

III 10年12月3日

ハイドン・交響曲第45番ハ短調「告別」

モーツアルト・管楽器のための協奏曲変ホ長調

ベートーヴェン・交響曲第8番ハ長調作品93

演奏活動

◇ ウィーン古典派シリーズⅠ～Ⅲ 特別演奏会

演奏 大阪フィルハーモニー交響楽団

指揮 延原武春・いずみホール

I 10年5月27日

ハイドン・交響曲第94番ト長調「驚愕」

モーツアルト・ヴァイオリン協奏曲第4番ニ長調「軍隊的」

ベートーヴェン・交響曲第4番変ロ長調作品60

◇ 日本テレマン協会第193回定期演奏会

演奏 テレマン室内合唱団・テレマン室

内オーケストラ

指揮 延原武春・いずみホール

10年6月21日

モーツアルト・フルート協奏曲第1番ト長調

・戴冠式ミサ ハ長調

・交響曲第41番ハ長調「ジユピター」

◇ 日本テレマン協会第414回マンスリーコンサート

演奏 シンフォニエッタ TELEMANN 他

指揮 延原武春・大阪倶楽部4階ホール

10年7月13日

「フランス語で歌うシャンソンVOL2」

ドビッシェ、ラヴェルとシャンソン・フランセーズ

◇ 日本テレマン協会第415回マンスリーコンサート

演奏 テレマン・アンサンブル

指揮 延原武春・大阪倶楽部4階ホール

10年8月10日

「J・Sバッハ・現代の姿に迫る」

管弦楽組曲第5番ト短調

ブランデンブルク協奏曲第5番ニ長調

ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調

◇ ドイツ・レクイエム

演奏 テレマン室内オーケストラ

合唱 コードリベット・コール

指揮 延原武春

J. ブラームス・宗教的歌曲作 品30

J. ブラームス・アヴェ・マリア 作品12

・アルト・ラプソディ 作品53

* 11年2月2日 杉並公会堂にて日本フィルハーモニーの演奏を指揮される予定です。

一般紙に紹介・登場

次頁の「延原武春さんと行くカトリック夙川協会」の記事はちよつと古く09年4月2日 日経の夕刊「ぶんか探訪」に載ったものです。私は例え一日たりとも新聞を読まずに捨てたことのない人間なのですが、気付きませんでした。実は大阪在住で、千二小卒業同期（27回生）の方が送って下さったものです。

テレマン協会がこんにちこれほど活躍できるのも夙川協会があつてのことと書かれています。

カトリック夙川教会はネオゴシック様式の聖堂を持ち、十字架をいただいた尖塔やステンドグラスが空気を厳かに引き締めると書かれています。さらに続いて、この教会は「沈黙」・「海と毒薬」などの作家・遠藤周作ゆかりの場所です。少年時代に母親によく連れてこられ、ここで洗礼を受けたとも書かれています。

「ミラノ 霧の風景」「トリエステの坂道」などを書いた須賀敦子も、幼年期を夙川で過ごしたことが知られているとも書かれています。

この教会の地下室こそ今も続くテレマン協会の練習場です。

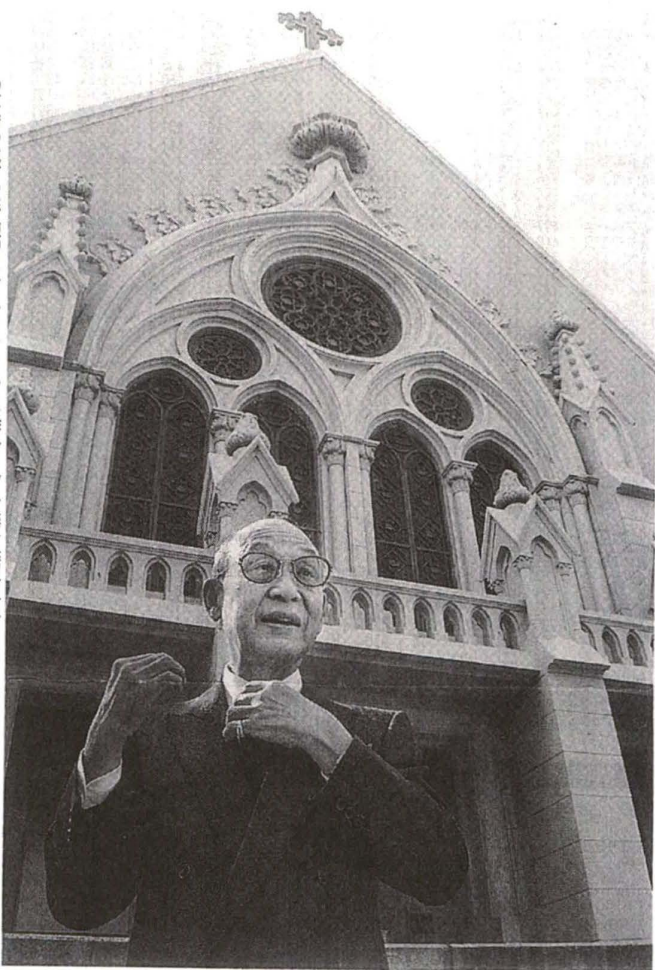
延原さんは63年（実に音大2年生の時に当たります）、協会の前身となるテレマン・アンサンブルを立ち上げたが、経済基盤の弱い楽壇に決まった練習場はなく、あちこちを転々としていたそうです。支援の手を差し伸べてくれたのが、音楽好きだった当時の西村良次神父。楽壇メンバーの一人がこの教会で婚約式を挙げたことをきっかけに、神父と親しくなり、聖堂でヘンデルのオラトリオ「メサイア」を上演するまでこぎつけたそうです。

一昨年、ベートーヴェンの交響曲全曲作曲当時の仕様の楽器、演奏語法で演奏。同年暮れに「ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章」をホルストケラー大統領より受勲されたことは、昨年の第12号会誌で報告させていただきました。

彼の益々のご活躍を念じております。

延原武春さんと行くカトリック夙川教会

バロック楽団育てた聖堂



「教会の地下室で練習している」といふ延原さん（兵庫県西宮市）

こちらの方はタイトルを見ていただいたら分かりますが、辛口の記事ではありませんが彼を非難しているわけではありません。むしろ彼の便乗組みを戒めた記事で、経済的停滞で楽団経営が厳しさを増す中、ドイツ音楽と名曲に傾倒する日本の聴衆を手っ取り早くつなぎ留める意図も見え隠れすると続いています。

彼はこの記事の中で「ベートーヴェンやハイドゥンらウィーン古典派は、ブルックナー、マーラーなど19世紀後半の巨大な音響の交響曲と違い、楽員個人の室内楽の足し算が演奏の基本」と宣言しています。

(日経 朝刊10年6月19日)

ベートーベン交響曲



“大フィル、サウンドに古楽奏法を融合させた延原の指揮”写真 飯島 隆

全曲演奏ブーム

集客力目当て

思惑見え隠れ

番へ逆に進み、1番から順に演奏しながら練習を繰り返す」と言い、15日間のリハーサルを提案。

専門家ら苦言

共催のすみだトリフォニーホールは、同楽団とのフランチャイズ(本拠地)契約をさらに前進させる好機と判断、ホールを1カ月近くも明け渡すこと

レ社の新全集刊行が遅れる中でのペーレンライタ「独走劇でもあった。」

ベートーベン研究者の平野昭氏(静岡文化芸術大教授)は「ブライトコプフ・ウント・ヘルテル、ペーターの両社にも詳